

地域文化創造論研究室について

この研究室では、地域やまちがどのような文化的背景のもとに創り上げられてきたのか、について学習します。

まちの風景を表層的にはなく、「その背景を踏まえながら読み取っていく力」、「既存の都市から文化資源を見出し、再評価する力」、「今後の観光まちづくりに活かす方法を考える力」を身につけていきましょう。こうした学習を試みることによって、これまで、まちの景観を前に漠然と「美しい」、「魅力的だ」と抱いていた自らの印象に、論理的な深みを加えることができると思います。

本研究室での学習目標は、詰め込みで皆さんの知悉を増やすことにあるのではなく、むしろ、研究室での学習を契機に、「自ら関連する資料を調べてみる」、「機会があれば自らフィールドで分析する」、「調べた成果を自らの切り口でまとめ公表する」、この3つのステップの面白さに触れてもらえればと考えています。

「地域の魅力を見出す目」を養い、将来的には「地域資源を活用しつつ、グローバルな文化交流を促進できる人材」として活躍して欲しいと願っています。



授業内容の紹介（講義）

地域文化論（1年生）

地域の文化的豊かさの発見とその分析手法について学習し、文化観光プロジェクトとの連携化について考えてみる、これが本講義のねらいとするところです。講義が終わっても、「地域を支える人の

力」の存在を再認識し、自ら地域活動に積極的に参画して欲しいと期待しています。

講義の構成は、毎回、ひとつの単語をテーマに挙げ（動詞＝「住む」、「記念する」、「飾る」、「展示する」、「散歩する」等の計 12 単語）、これを視軸に地域が持っている文化的魅力、思想的背景を深く読み解いていきます。これは、地域の文化について、表層的・概念的に把握するのではなく、人々の暮らしに根ざした視点から深く掘り下げようという意図があります。

授業内容の紹介（演習）

地域実習 ～「やまぐち 飾りの手帖」の制作～（2年生以上）

地域独自の歴史や文化を継承する媒体として「飾り」が挙げられます。普段あまり意識することがないかも知れませんが、まちを歩いていると、建物の特徴的な屋根飾りや壁の模様、伝統的な暖簾の柄、祭りの設え、老舗に長く受け継がれてきた包装紙のデザイン、更に大内菱など銘菓の意匠に至るまで、様々な飾りを見ることができます。

これらの飾りは、地域外からの来訪者にとって大変興味深いものですし、過去と未来とを繋ぐデザインの源流として今後の地域ブランディングにも欠かせない要素と言えます。この実習では山口市内を中心に、そうしたまちの「飾り」を探しに出掛け（フィールド学習）、地域の方に由来を伺い（ヒアリング調査）、必要な史的文献をひもとく（文献調査）というプロセスを順に試み、最終的には「飾りの手帖」（パンフレット形式）にまとめます。また可能であれば同内容を web 上にアップし、山口の文化観光ツールとして生かすことができるような段階（地域貢献の一環）まで進めていきます。

基礎演習（2年生）

「文化資源を活用したコミュニティ・ツーリズム（地域観光）」をテーマに、関連する史的文献調査・現地フィールド調査を通じて、街並み・芸術・文芸・食・風習など、地域に宿る様々な文化資源を深く読み取る手法を習得していきます。山口市街地の「3時間まち歩き」プランの提案、および「3時間まち歩き」プラン活用案の提案を行います。

専門演習（3年生必修）

「歴史的まち並みを生かした観光まちづくり」をテーマに、「観光まちづくり事例集（ノート）」の作成、および「観光まちづくりパンフレット」の作成に取り組みます。

この他、「文化創造ワークショップ」（2年生・演習）などを担当しています。

参考

ホームページ(<http://saito.ypu.jp>)より地域文化創造論研究室に関する情報を見ることができます（予定・近日情報更新予定）。



地域の専門家へのヒアリング調査



旧県会議事堂内の装飾（山口市）